

地域の概要及び課題

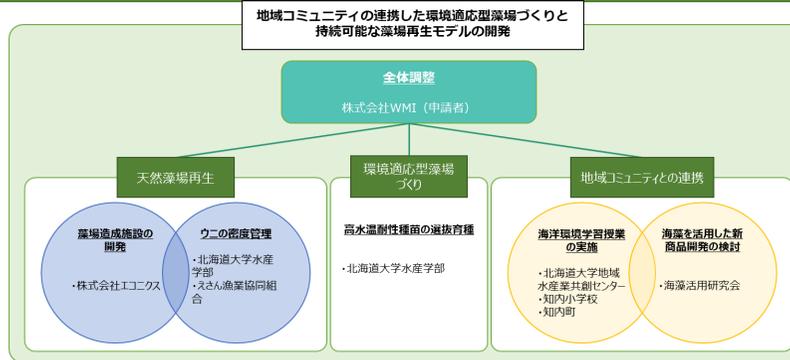
【地域の概要】

- ・コンブの国内生産量の9割以上が北海道産、なかでも函館地域はこのうちの約2割を占め、生産量・生産高ともに日本一を誇り、コンブは地域の重要産業の一つ。

【課題】

- ・近年は高水温など海洋環境の変化により天然コンブ資源が激減。養殖コンブの母藻の確保も苦慮している状況。
- ・生態系の崩壊により、ウニが大量に存在する海域が拡大。
- ・コンブ漁業の担い手及び労働力不足も顕著。

取り組みの実施体制、連携



活動地名
北海道
函館市、知内町



R6年度モデル事業における取組内容および成果

天然藻場再生に向けた活動

- ・安価な資材による核藻場づくり
- ・地元漁協、地元漁業者、北海道大学と協働して、藻場のモニタリング及びコンブの外敵であるウニの密度管理を実施

【成果】

函館市恵山地区において、計2回の密度管理を実施し、計16,000個のウニを移殖したことにより、食圧の抑制が図られた。

環境適応型藻場づくり

- ・環境に適応した高水温耐性種苗の選抜育種に向けたマコンブの種苗を採取

【成果】

函館地域3地区に加え、本州を含めた5地区の配偶体入手、保管。今後の選抜育種に向けた生理特性の解析を進めている。

地域コミュニティとの連携

- ・自治体、北海道大学と連携して小学校における海洋環境授業を開催
- ・地元の産官学が参画している地域企業とコンブを活用した新たな商品の可能性について意見交換を実施



【成果】

小学3年生を対象に、生分解性のねんどを使って海の生き物を作り、海中に設置。その様子を観察した映像を使い、藻場の大切さや海の生き物に関する知識を深めた。また、地域漁協の水産物種苗センターの見学を行い、地域の産業についても学ぶ機会となった。

今後の課題および 取組方針

- ・ウニの密度管理と藻場回復状況観察の継続的な実施体制づくりとより広範囲で藻場回復を行うための新たな手法の検討
- ・保存株の生理特性の解明による高水温耐性株の検出を行い、耐性の株に必要な遺伝的条件を解明し、育種を進める
- ・学校における継続した海洋教育の必要と小中高と段階的に里海や地域水産業を学びやすい海洋教育のプログラム化を目指す
- ・さらに多くのステークホルダーとの協業、具体的な海藻関連商品の開発により新たな地域産業の創出を図る